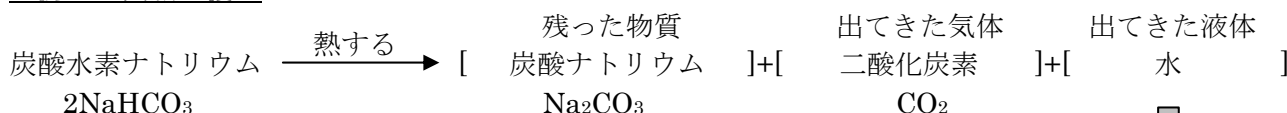


No.31 水の電気分解（物質はどこまで分解できるか）

■前回の実験の復習



■考えよう【意欲】

- 水を原子記号を用いて書くと？ → [a]
- 水は、さらにほかの物質に分解することができるだろうか？
分解できる場合、何と何に分解できると予想できるか？ → [b]

■新しい用語を覚えよう【知識】

[c]：物質に電流をながして分解すること。

■実験方法

- ① 電気分解装置に電極のついているゴム栓をし、液だめを利用してうすい水酸化ナトリウム水溶液を入れる。
- ② 上部のゴム栓をし、2つの電極と電源装置をつないで、電流を流す。（6V に設定）
- ③ 陰極側に半分ほど気体がたまったら、電流を流すのをとめる。

●観察

- ④ 電極をはずしたら、ピンチコックでゴム管を閉じる。
- ⑤ 陰極側に火のついたマッチを近づける。
- ⑥ 陽極側に火のついた線香を入れる。

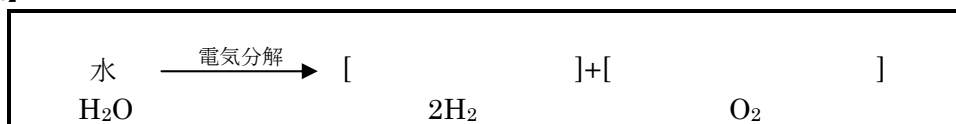
■思い出そう【知識】

- 酸素が混ざった時に火を近づけると爆発をする気体は何か？ → [d]
- 物質を燃やすはたらきのある気体は何か → [e]

■実験結果【思考】

	性質を調べたときのようす	考えられる気体名
陰極の気体		
陽極の気体		

■考察【知識】



この結果から、水から分解してでてきた水素と酸素は、これ以上分解[]と予想できる。